日本聖公会北海道教区　東日本大震災支援室　ニュースNO．１８　　２０１１.１２.２４.

【ミッションステートメント】「いっしょに歩こう！プロジェクト」～日本聖公会東日本大震災被災者支援

① わたしたちは、東日本大震災により困難を負って生きる人々に敬意を払っていっしょに歩きます。
② わたしたちは、被災地の方々の生活と地域の再創造に向けていっしょに歩きます。
③ わたしたちは、主イエス・キリストが、共に歩いてくださることに励まされていっしょに歩きます。

釜石でもいよいよクリスマス。いよいよ 2011 年も終わりに近づいてきました。支援センターでは、クリスマスや年越しの準備に追われています。支援室ニュースの発行は年内最後となりましたので、拡大版でお送りいたします。みなさま、良いクリスマスを、良い年をお迎えください。これからも釜石支援へのお支えをよろしくお願いいたします。

【向井清子さん・着任】

正式にはお知らせしておりませんでしたが、12 月 1 日付で、東京教区三光教会の向井清子さんが、釜石支援センターの正職員として着任されることになりました。ブログ等では既に多くの発信をなさってくださっております。向井さんの“足湯”は、仮設住宅のサロンでは欠かせない、大事な働きになってきています。今回、支援室ニュースに自己紹介をお寄せくださいましたので、掲載いたします。

自己紹介　　三光教会　向井清子

はじめまして。東京教区三光教会の向井清子と申します。これからどうぞよろしくお願い致します。さて、私が災害支援活動に関わったのは、今回が初めてで、3 月末に一般ボランティアとして足湯を体験し、「足湯は、たくさんの可能性に満ちた支援かも」と感じて以来、ずっとその働きを続けております。活動で訪れた場所は、釜石の他に、七が浜町、石巻市、陸前高田市、郡山市の各避難所や仮設などです。ブログでは時々「足湯マスター」と呼ばれていますが、足湯は単純で素朴な働きですから、ひざまずける方なら、誰でもできるのです。だからマスターは存在しませんし、巡り合わせが良ければ、足湯をする人、される人の 2 者間で、共に深い体験をすることもあります。一瞬の出来事ですが、そんな時、この単純素朴な働きのダイナミズムを感じるのです。ぜひ釜石の支援センターにおいで下さい。そして機会があれば、一度、足湯を体験してみるのも良いかもしれません。

【北見から、ミニうすのプレゼント】

北見聖ヤコブ教会の信徒・鴻上(こうがみ)啓子さんのご主・義雄さんの経営されている“北海道木工株式会社”より、ミニうすを 4 基、釜石神愛幼児学園に寄付していただきました。幼児でも使える小さなうすに、幼児学園の先生、子どもたちも大喜び。鴻上啓子さん・義雄さん、本当にありがとうございました。早速、子どもたちと使ってみるそうです。

【リベリナから、マフラーと帽子のプレゼント・そしてサンタさんとの衛星中継】

１２月１５日、北海道教区と数年来友情関係を結んでいますオーストラリア聖公会リベリナ教区から、手編みのマフラーと帽子のプレゼントが神愛幼児学園に到着。７月に三陸沿岸を視察、釜石で奉仕されたリベリナ区の熊坂司祭とマイケル・ハリナン氏の報告を受け、クリスマスに間に合うようにと、心を込めて現地で準備下さったものです。また、アングリケアー（オーストラリア聖公会の支援機関）が取り扱う支援物資という事で、カンタス航空を始め、地元の輸送機関が全面協力下さり、無料で成田空港まで輸送されました。１箱１０キロ詰の段ボール１５箱の中に圧縮パックされた、１０００組以上のマフラーと手袋、ヌイグルミは、神愛幼児学園の先生方の大奮闘により、神愛幼児学園の分だけでなく、釜石市内の保育園、幼稚園の全園児に渡るよう仕分けされました。

１２月１７日には、神愛幼児学園の管理牧師の加藤主教様を迎え、クリスマス礼拝とお祝い会。園児たちが立派に聖劇を演じた後、お祝い会では、スカイプを通じて釜石とリベリナが結ばれました。オーストラリア・釜石間の同時生中継で、サンタクロースに扮したロブ・ハリス司祭と通訳の熊坂司祭が登場。スクリーンに映し出され、直接語りかけてくるサンタさんに子どもたちは、大興奮でした。

藤井司祭が担って下さったリベリナ教区との丹念な打ち合わせ、リベリナ教区で何か月もかけて祈りの内になされたプレゼントの準備、オーストラリア企業の輸送への協力、膨大な仕分け作業を忙しい中喜んで担って下さった幼児学園職員の皆さんの奮闘、サンタクロースとの生中継をリハーサルを含め技術サポートされた向井さんの働き、多くの人々の思いと働きが釜石の地で繋がりました。本当にありがとうございました。

※尚、スカイプは双方向ですので、釜石の様子はリベリナ教区にも届き、「サンタクロース（ロブ・ハリス司祭）さんも、沢山の元気な釜石の子供たちに、びっくり」との事でした。

【大町先生と行く釜石ボランティアの旅・開催】

大町先生と行く釜石ボランティアの旅が 12 月 7 日～11 日に行われました。引率は大町信也司祭、参加されたのは木村登美子さん、阿部恵子さん、川北キヌさん、の 4 名。特に川北さんは 80 歳と、おそらくボランティア最高齢でしょう。ツアーは、お茶っこや足湯、センター業務など、さまざまな活動を行い、無事北海道に戻りました。みなさん、お疲れ様でした。ありがとうございました。なお、阿部恵子さん・川北キヌさんより感想をいただいていますので、掲載いたします。

「釜石ボランティアツアーに参加して」　　聖マーガレット教会　阿部恵子

「すっごく気持ちいいよ」「そうですか、そう言ってもらえると私も嬉しいです。」

こんな会話からスタートした私の「足湯&お茶っこサロン」デビューですが、実は仮設住宅へ向かう車中では、東京から来た西川さんと笑顔で話しながらも、手揉みの順序を頭の中で反復し、湯温、手揉み、傾聴の三拍子、可能かしらとちょっぴり不安でした。

午前中大畑東仮設で三人の方の足湯を経験した私は、午後に初の出前サロン、大畑西仮設へ。少し馴れた私に、最初の女性は「私、手が痛くて触られたくないの」と。長年の仕事の後遺症で腫れて痛々しい手。身体をかがめてもらい、一緒に手もお湯の中へ。「大した気持ちいいわ」と訛りのある言葉で満足そう、お湯を足し、繰り返し手首までお湯をかけてあげた私でした。

この、街から離れた西仮設に暮らす人々は、最近まで避難所で生活し、自治会も機能していない様子。“迷い出た一匹の羊”を見捨てる事なく、被災者の心が癒されるのを助ける為に、多くの人がボランティアに参加することを願った一日でした。

「大町先生と行く釜石ボランティアの旅」　　聖マーガレット教会　川北きぬ

私の様な者でも何か出来るかと考えていた矢先「80 才の私でも？」「大丈夫」とのことで決定した。実は私の父は福島県の出身で、私には東北人の血が流れて居る。きっと父は行って上げなさい。と言って呉れたかの様に私は直に覚悟した。

一番心配していた現地の方との会話。逆に「今度は何処から、有り難う、ご苦労様」などと勇気付けられ安心する。道中あの美しいリアス式海岸の眺め、又山合いの道を走りながら、それぞれ考え深い思いで南下する。現地に着くと先ずは寝食共にする同志一同の寝床を整理し、夕食後の本日の反省会から明日の予定などと一同の生活が始まった。

一番心配していた事柄も一安心したが、仕事の中での想い出として一番辛い事は、泥まみれの写真の整理。漁師さんの籠の中に今でも海水に漬かり、汚れた儘の写真。それを整理し、持ち主の手元に届ける。この仕事には覚悟が必要と私は思った。海水の中で虫も動いている状態で、静かにゆっくりと、優しくアルバムから剥し取る。乾燥して新しいアルバムに納める。今の季節すぐには乾燥できず、明日に持ち込む。私が一番に手掛けたのは、或る会社の入社式の記念写真でした。並んだ顔は皆晴々として居た。昭和 54 年と会社名もあり、これなら直にも関係者に渡るかと安心する。会社寮の前で初めて会った二人。今は何才になるのか？ 二人は無事だったのか？ などと考えながら胸が一杯になる思いがして、皆黙々と作業する。一日でも早く届けられる様祈る気持ちで一杯であった。

一定の作業予定も終わり釜石神愛教会での礼拝。格式高い広い教会で 12 名の出席者は家族の様に大声で聖歌を歌った。広い天井一杯に広がった。恵まれた天候と無事な行程に感謝一杯であった。

【釜石での働き】　　支援室ブログ（海老原祐治さん・向井清子さん発信）より抜粋

12 月 9 日

本日は金曜日。仮設でのサロンの日です。仮設の談話室は場所によって違うので面白いですね。電気のブレーカーがすぐに落ちる談話室や、使われている形跡がまったくない談話室もあります。談話室をみればそこの仮設の様子が窺い知れます。今日は留守が多く人数的な側面でいえば苦戦でした。でもいらした方はとっても喜んでくださいました。ささやかな会話の中からニーズを拾い上げることもできました。少しはお役に立てたと思います。私達は人数的な価値観にとらわれることが多いのですが、それよりも大事なことがきっとあります。今日午後に行った仮設はあまりボランティアが行かない仮設です。住民の気持ちのなかに、自分たちは捨て置かれている、見捨てられている、という意識があるように感じました。そのような仮設で粘り強くサロンを続けることはかなり大変なことです。やっている側の立場でいうならば、人が来ない場所でサロンを開催するより、人が大勢くる仮設でサロンを開催した方が楽しいのですから。仮設でのサロン展開の難しいところです。

手作りのお菓子は今日も好評でした。今日は大館の方が焼いてくださったマドレーヌを持参しました。感謝。また今日足湯デビューを果たした阿部さん・西川さんご苦労さまでした。それぞれに良く深い足湯ならではの体験ができてよかったですね。

センターでは、大町先生と木村さん・川北さんが担ってくださいました。こちらでも素晴らしい出会いがあってよかったですね。またバックヤードの整理が進みました。ありがとうございました。

12 月 13 日

『痛みと共にある歓喜』

素晴らしい第九でした。心がたくさん動き、何度も涙がこぼれました。そこには歓喜が満ちていました。しかし満ちていたのは歓喜だけではなく、はかり知れない悲しみと言葉にすることのできない恐怖がそこには満ちていました。それは廃墟で感じるより切実に迫ってくるリアリティーでした。その歌声には、そしてその顔やみ姿には、疑うことのできない痛みが宿っていました。

第九は歓喜のうたです。多くの方が何度も第九を聞き、何度もこころを揺さぶられたことでしょう。私もそうです。でも今回の第九は違いました。リアルでした。それは歓喜が痛みを伴っていたからです。生きるということは、悲しみや痛みと切り離すことができません。それはだれの人生でも必ずです。さらにいうならば、その悲しみや痛みを忘れることもできないし、癒すこともできません。被災地で生きる人々はその痛みを抱えたまま荒野を生きてゆきます。痛みになれることはあっても、痛みが和らぐことはないのです。でも彼らは「痛い、痛い」と叫びながら生きていくのではありません。そのことを証明したのが今回の釜石第九です。どんなに痛くても、どんなに辛くても、そこに歓喜は訪れます。それがベートーベンの確信であり、第九のリアリティーです。

歓喜は歌声だけではありません。明日あなたの街の、街角の向こうにあるかもしれません。図書館の片隅に落ちているかもしれませんし、冷凍庫の奥底で凍りついているかもしれません。私の祈りは釜石の鈴子にある小さな支援センターにそれが宿ることです。

歓喜は悲しみや痛みの対価ではなく、本来約束されているものです。なにがあろうと、なにを失おうと、私たちは歓喜することができるのです。それが人間の力です。釜石第九はそれを高らかに歌ってくれたのです。

12 月 18 日

本日は金曜日。その昔「花の金曜日」という言葉がありましたが、我らがセンターでは「ダブルヘッターの金曜日」という言葉ができています。午前は大畑東、午後は甲子Ｂ-にてお茶っこ＆足湯サロン。朝の８時から向井マスターによる足湯講座が開かれ、小林さんと到着したばかりの水藤さんはレクチャーを受けました。ちなみに向井マスターのレクチャーは聖書の朗読から始まります。

９時過ぎに向井マスターと小林さん水藤さんは、雪雲の中、甲子方面に向けて出発。

海老原は本日センター業務。でもちょっとだけセンターを閉めて大畑東仮設へ餅つき大会の打ち合わせへ。お昼前にサロンをやっている談話室を覗くと、いつものように楽しげな様子。温かい雰囲気で迎えられ、自治会事務局長さまと簡単に打ち合わせ。

【紙袋提供のお願い】

釜石支援センターで支援品を配布する際に、持ち帰るために紙袋を提供しているのですが、訪ねてこられる方も多く、常時紙袋が不足状態です。皆様のご家庭に、使っていない紙袋がございましたら、支援センターに提供していただけますと幸いです。紙袋だけ送っていただくのは申し訳ないので、教役者引率のツアーの時に託していただいたり、支援品を送る際に出来た隙間に詰めていただいたりしていただきますと幸いです。どうぞご協力をお願いいたします。

【いっしょに歩こう！プロジェクト】

「いっしょに歩こう！プロジェクト」の活動の様子は、月一度発行予定の「ニュースレター」や、「いっしょに歩こうプロジェクト！」ホームページ http://nskk.org/walk で、ご覧いただけます。

【支援室の活動】

インターネットで支援室ブログが見られます。毎日の釜石ベースの活動もアップされます。http://nskkhokkaido.blog89.fc2.com　又は、「日本聖公会北海道教区ホームページ」➔「東日本大震災」➔「震災支援室ブログ」の手順でご覧下さい。

【震災支援室より】

◎ 支援室ニュースは、各教会において掲示下さると共に、増刷して配布ください。支援室ニュースのバックナンバーは、日本聖公会北海道教区のホームページにでも見る事ができます。

◎ 教会や個人での取り組みについても、お知らせください。他の教会の活動の参考になります。

【連絡・問合せ先】　電話：０１１－５６１－０４５１、ファクス：０１１－７３６－８３７７
Ｅメールアドレス：ｓａｉｇａｉ＠ｎｓｋｋ－ｈｏｋｋａｉｄｏ．ｊｐ

【釜石ベース】〒026-0031　釜石市鈴子町５－４　「聖公会　釜石被災者支援センター」
☏０１９３－５５－４５２４、０９０－６９９９－７８４０
Ｅメールアドレス:ｎｓｋｋ３１１＠ｙａｈｏｏ．ｃｏ．ｊｐ